

富士ニュースに富士市立高校との新商品の共同開発活動が掲載されました

2021年9月6日、富士市立高校と弊社との新商品の共同開発活動について、富士ニュースの取材を受け、9月9日に掲載されました。

弊社では2020年春ごろから新型コロナウイルスの流行下で、少しでも社会に貢献する取り組みを行おうと、主に輸出梱包用として使用されている特殊強化ダンボールを使って、商品開発プロジェクトを立ち上げました。これまで飛沫防止パネルや災害時隔離用パーテーション&ベッドなどの開発に着手してきました。

そしてプロジェクト開始から1年後の、2021年4月から、高校生のアイデアを商品開発に生かそうと、富士市立高校に参加を呼びかけ、活動がスタートしました。

この日は生徒のアイデアの1つである簡易更衣室「間仕切レンジャーズ」の1/5スケールのサンプルについて、改善点を話し合い生徒の方たちには製品化に至るまでのプロセスを学んでいただくとともに、弊社も高校生のような柔軟な発想で開発活動を進めていきたいと思えます。



試作品模型を基に意見を出し合った

強化段ボール新商品開発へ

大村総業と市立高校生徒が共同で

富士市夢原の総合物流企業・大村総業が、富士市立高の生徒2人と同社が取り扱う特殊強化段ボールを使用した商品開発プロジェクトをスタート。PCR検査用ブースや飛沫防止パネル、避難所用簡易ベッドなどを製品化した。

富士市夢原の総合物流企業・大村総業が、富士市立高の生徒2人と同社が取り扱う特殊強化段ボールを使用した商品開発プロジェクトをスタート。PCR検査用ブースや飛沫防止パネル、避難所用簡易ベッドなどを製品化した。

この日を目的に、同校に呼びかけて実現したという。参加する生徒は、総合探究科3年の長田桃果さんと井上碧人さん。今年4月から、同社員との打ち合わせや工

場見学、市場調査などを行い、避難所用簡易更衣室と非対面式デスクを提案した。長田さん提案の「間仕切レンジャーズ」は、避難所で使用するための組み立て式の更衣室

バレーボール部に所属していたとき、大会などの際には多くの生徒と一緒に着替えずにはいけない状況に抵抗があったこと、同じ県内の熱海市で土砂災害が発生したことなどがきっかけとなり、アイデアが浮かんだという。長方形3枚の壁面と正方形1枚の床面で構成し、連結部分を工夫することで、簡単に組

み立てたり収納したりできるのが特長。拡張もできるようにすることで、親子や高齢者介助での使用、授乳室としての利用も可能。9月中旬に実物大の試作品を作り、製品化を目指す。井上さん提案の非対面デスクは、パーテーションなしで新型コロナウイルスの感染対策が可能なる人掛けの机。3人がそれぞれ別の方

向を向いて座れるように特殊な形状とすることで、パーテーションや仕切りによる圧迫感がなく、開放的ながらも飛まつ感染ができる商品とした。同社総務部部長の石川貴英さんは「高校生らしい柔軟な発想が素晴らしいと感じた。今後も、共に学び合いながら事業を進めていきたい」と話した。